

# 氷上中学校だより

2月臨時号  
令和2年2月26日  
電話：82-1148  
FAX：82-6850

## 全国学力・学習状況調査(H31.4.18)の結果をお知らせします。

**調査の目的** (参照：文部科学省HP) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

### 調査内容

#### 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価改善する力等に関わる内容

◇調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査学校に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

#### 時間割 ◎中学校

国語(50分)、数学(50分)、英語(45分)、生徒質問紙、英語「話すこと」調査(5分)

## 調査結果から明らかになった成果と課題

### 【国語】全国と同程度でしたが以下のような成果と課題がみられます。

- ・複数の資料をもとに内容を照らし合わせながら、正確に文意を捉えることに課題がありました。
- ・文章を読んで内容を捉える際には、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて情報を過不足なく選択し整理することに課題がありました。
- ・伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことが問われた設問で概ね良好な結果が見られました。
- ・新聞記事や短い文章をもとに、書かれている内容を整理し、必要な情報を選び出す学習を重ねる必要があると考えます。
- ・国語の授業だけではなく、他教科の授業などあらゆる場面で「自分はどうか考えるのか」について書かせることを習慣化する必要があります。
- ・64.8%が「国語の勉強が好き」と答え、80%が「授業がよく分かる」、89.1%が「国語の勉強は大切だ」、84.2%が「将来に役立つ」と答えています。一方、「日常的に生かしている」は66%にとどまっています。「国語の学習が大切だ」という認識を持つ生徒が9割と多数を占めることを生かし、日常生活とのつながりを意識しながら、関心や意欲を持って取り組める授業づくりが必要だと考えます。
- ・「国語の授業では目的に応じて、自分の考えを話したり、書いたりしている」生徒は75.7%と高いが、「よりよく伝わるように話や文章の組み立てを工夫している」50.3%、「文章を読むときにポイントをおさえ、文章や段落どうしの関係を考えながら読んでいる」57%と下がってくる。文章をただ読むだけではなく、要点を捉え、文章や段落どうしの関係性を理解しながら読み取ることや、条件を踏まえて、自分の考えを書く授業の充実を図る必要があります。

### 【数学】全国と同程度でしたが以下のような成果と課題がみられます。

- ・数と式領域では、連立二元一次方程式の基本的な問題で誤りが見られました。加減法、もしくは代入法を用い文字を消去した後の移項で符号を正確に決定できなかったと思われる。移項の仕組みを確認する必要があると考えます。
- ・図形領域では、調べたことをもとに結論が成り立つための前提を考え、説明する問題の理解が不十分でした。図形を分類する視点を整理し、様々な条件下でどのような図形になるか説明させる学習が必要であると考えます。
- ・関数領域では、反比例の関係に関する理解が不十分でした。改めて比例・反比例の関係を復習することが大切です。また、図形領域同様に式やグラフを自ら作成し試行錯誤することが重要です。様々な道具を用意し、グループで作業し説明し合いながら問題を解決していく経験を積み重ねたいと考えています。
- ・資料の活用領域では、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に課題が見られました。全問題を通して唯一、無解答率で全国を上回りました。情報を読み取り根拠をはっきりさせて記述する問題は苦手なようです。様々な着眼点や数学的な表現があることを紹介し、事例を用い記述する練習が必要だと考えます。

### 【英語】全国平均とほぼ同じでしたが以下のような課題がみられます。

- ・4領域において、「話すこと」では全国平均正答率を上回りましたが、それ以外の領域においては下回りました。
- ・「聞くこと」では、教室英語を理解して情報を正確に聞き取ることはできていましたが、日常的話題やまとまりのある内容を聞き取ることに課題があります。また、まとまりのある内容を聞き、適切に応じることができるよう、話し手の意図をとらえることにも課題があります。情報を正確に聞き取るためには、英語の音声の特徴を踏まえて、教師が自然な口調の英語を用いて話すなど、日常的に「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていく必要があります。さらに、聞くだけにとどまらず、聞いて適切に応じる活動を体験的に身につけさせたい。
- ・「読むこと」では、日常的話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を読み取ることはできていますが、社会的な話題についてまとまりのある文章を読み、書き手が伝えたいことや大切な部分をとらえることに課題があります。また、読んだ後に自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを主体的にとらえることにも課題があります。日常的話題だけでなく社会的な話題についての題材を扱うことが必要です。
- ・「書くこと」では、書こうとする意欲はみられるものの語や文法事項を正しく用いて文を書くことと、与えられたテーマについて考えを整理し、内容を伝えることに課題があります。言語活動を通して接続詞の正しい使い方を習得させ、まとまりのある文章を書くことができるようにしていきたい。さらに、「自分の主張→主張を支える根拠や具体例」という構成で書くなど、文章形式を判断して書く言語活動も取り入れたい。

【平成 30 年度】

【令和元年度】

